

協議会ニュース 83号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2002.7



ナガサキアゲハ ♀
KOKO.I.

【レポート】 降幡 光宏 知多支部20周年記念大会	2
【トピック】 相地 満 北上を続ける蝶・ナガサキアゲハ	4
【レポート】 岩沢 修 庄内緑地ネイチュア・フィーリングをスタートして	6
【レポート】 近藤 記巳子 うらばなし「ヒメボタルサミットin愛知」	7
【行事予定】 山田 千宏 名古屋支部設立20周年記念大会	8
【行事予定】 石井 幸子 なごやメダカを知っていますか?	9
【トピック】 会員リレー(石井幸子・近藤記巳子・石田晴子)	10
【行事予定】 寺本 和子 観察会だより(東三河支部)	11
【行事予定】 滝田 久憲 名古屋の自然観察ラリーについて	11
【レポート】 石田 晴子 協議会ニュース部会報告	12

知多支部20周年記念大会

大会準備から開催まで

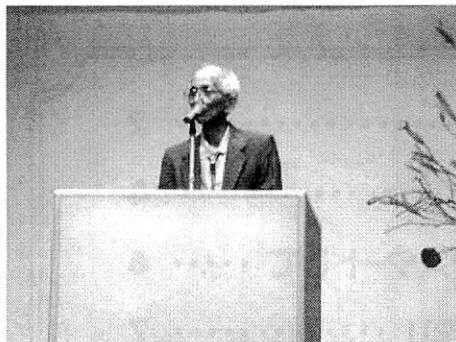
知多支部の年間行事計画は、前年10月の始めに各市町村の世話係が集まり、次年度の共通行事の確認を行います。これは支部全体で行う行事、県協議会の行事が市町の観察会と重ならないようにするためです。この時に知多支部20周年記念大会を7月20日から8月30日まで開催される半田空の科学主催の特別展「知多の身近な自然」に便乗して行う計画をしました。

以上、話し合われた内容を持ち帰り、各市町の会員が集まって行事計画を検討して、それぞれの市町観察会計画が作成されます。

11月に再度、各市町の世話係が市町観察会行事計画を持ち寄ります。これをもとに知多全体の観察会予定を調整して、次年度の行事を内定されます。

2月の支部総会で支部全体の年間行事予定が承認されます。例年、11月に話し合われた原案でシャンシャンと決まります。ところが今年は「20周年記念大会を半田空の科学主催の特別展に便乗するのでは無く、別に設定すべき」との意見が出されました。話し合いの結果独自大会として、次のようになりました。

8日（土）午前「矢勝川の生き物観察」	(半田市の年間行事予定計画に便乗)
午後「半田市の古い町の観察と見学」	(半田市の会員の案内)
夜「指導員のつどい」（泊）	(知多市南浜荘を半田勤労会館に変更)
9日（日）午前「海辺の生きもの観察」	(新舞子海岸)
午後「記念式典・講演・記録発表」	(知多市地域文化センター)
終日「資料展示・自然工作教室」	(知多市地域文化センター)



「記念式典・講演・記録発表」



「記念式典・講演・記録発表」



「資料展示・自然工作教室」



「資料展示・自然工作教室」

自然観察指導員のつどい・懇談会（前夜祭）

6月8日（土）半田勤労福祉会館で17:30から自然観察指導員のつどいを開催しました。目的は、愛知県内の各支部間の情報交換です。県内に5支部があるが、それぞれの組織や活動の仕方が少し違うらしい、その詳細をお互いに理解するためです。そこで一堂に集まり気楽に話し合うことにより、何か参考になることがあるのではないかと考えました。参加していただいたのは、名古屋3名、尾張5名、知多21名、西三河3名、東三河1名、奥三河0名で合計33名です。

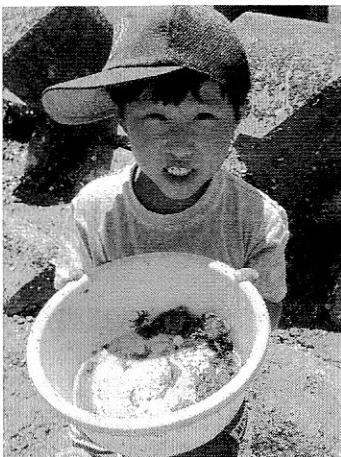
取り回しは、言い出しつづけの知多支部の降幡が独断と偏見で進めました。それぞれの支部の基礎資料として、事前に支部の人口と会員数を調べておきました。支部の状況を把握する条件として、①総会の開催月、②総会出席者数、③自主観察会運営方法、④自主観察会回数、⑤行政からの観察会の依頼状況、⑥団体や民間からの観察会の依頼状況、⑦学校からの依頼状況、⑧会員研修会、⑨社会運動や提携団体、⑩会報や年報の発行、⑪支部規約と会費、⑫Eメールやメーリングリストの活用状況など12項目を話し合いのたたき台として用意しました。

①の項目について、話し合いを始め、支部別にご意見をいただいたところ「懇談項目が多すぎて一項目ごとに話し合っていく時間が無い」との意見がでました。急遽切り替えて、出席者の皆さんから支部活動全般について、意見をいただくことにしました。懇談では、できるだけたくさんの人々に意見を聞くよう取り回しを考えるのが精一杯で、話し合いの記録を考える余裕がありませんでした。

降幡 光宏



「海辺の生きもの観察」



「海辺の生きもの観察」



「海辺の生きもの観察」



「海辺の生きもの観察」



「海辺の生きもの観察」

北上を続ける蝶・ナガサキアゲハ

相地 満

かつてクロコノマチョウが愛知県に入ってきたとき、隣県の静岡と並んで県内にもひとつつのブームと呼ばれる状況がうまれた。自然観察者の多くがこの蝶に注目し、盛んに後を追い、記録をとり続けた。クロコノマチョウは、一定のルートを伝ってどんどんと北上を続け、まず食草であるジュズダマの多い太平洋沿岸から、次第に河川をさかのぼって山間部へと分布を広げていった。しかし細部に渡っての進入経路は、意外と明らかにされていない。知多半島における私の採取記録は、88年8月（夏型）となっており、この時点で知多半島の標本はなかった。写真が半田市史の自然編に載っているうので探してみたが見いだせなかった。その後、いくつか採れたという話は聞いたが、まとまった資料化はされていない。ところが95年から常滑市と東海市でよく見られるようになった。そして99年の夏には南知多・武豊・常滑・半田・東海で普通に見られるようになってきた。クロコノマチョウはどうやら知多半島を南下して分布を広げていった。ブームが去るとそういった地味な観察記録は黙殺されていく。クロコマノチョウのその後について、どこかで一度整理しておきたいものである。さてその後も迷蝶として記録されたもの以外に分布を広げてきたものたちがいる。その一つはツマグロヒョウモンである。この蝶も94年に東海市で見つかって以来あっという間に知多半島全域に広がった。極端な話、花壇を訪れるヒメアカタテハと同じくらいの頻度でみることができる。これが10年前には見られなかっただ蝶だとはとても思えない。記録をとる間もなかっただという話である。この蝶も半島の付け根の部分から南下していったように思われる。だが今、半島の南部に入り込み、北上を続けている蝶たちがいる。ナガサキアゲハ・ミカドアゲハ・ヤクシマルリシジミなどである。などというのはこれ以外にも注目されている蝶たち、サツマシジミ・カバマダラがいるからである。サツマシジミは美浜町で結局は一年限りのようであったが、どこかでまた出てくるかもしれないし、カバマダラは武豊町での目撃である。今のところ更なる分布拡大の記録はないミカドアゲハの復活ち数点のヤクシマルリシジミの採取記録にくらべ、ナガサキアゲハは一気に分布拡大を成し遂げ、多くの人の目にとまるようになっている。表は、水野利彦さんと井上智紫さんと私の記録を合わせたものだが、これだけを見ても侵入経路がおぼろげながらわかってくる。昨年、名古屋市内でも見つかり、大府・東海でもみた、あるいは採取したという話を聞いた。随分以前に天白区相生山で採取されているが、そのときは迷蝶扱いされたものが、今この地方では普通に見られる蝶になろうとしている。観察記録を取り続けたいものである。

さてこのナガサキアゲハの分布拡大の要因に放蝶説があるという。しかしながらこれほどの勢いで分布拡大されている理由には放蝶説では十分満足できない自然の要因があると思われる。有力な説に蝶本来が持つ適応能力の内的変化によるものとする説と地球温暖化によるものとする説がある。某氏は地球温暖化説をとり、生態学会誌において詳細にその説の立証を行っている。その論考を読む限りなるほどと思うことが多い。風説やら思い込みに、あるいは単なる思いつきに惑わされることなく、小さな事がらにも疑問や不思議を感じ、科学の芽を育てていくことが必要であると思われる。それを可能にしてみせたのがレイ・チャエル・カーソンであったと思う。自然観察指導とは、不思議や神秘などを感じ取る感性と事象をつぶさに観察することによって得られる論理、そして事実に基づく科学的な思考力などの糸口を無数につむぎ出していく仕事なのだと思う。さなぎが越冬できる冬季の積算温度が高くなっていること、そして羽化した蝶の食草であるミカンが豊富にあるということ、かつて良く手入れされたミカン畑は、今半島のいたるところに放置され、手入れが行き届いてない。愛知用水の導水によってブームを呼んだ知多のミカン作りは、温室ミカン以外は熱心な手入れをされないままに新しい蝶の楽園となっているのである。そこにナガサキアゲハの参入を許している主要な要因があるのである。今後心有る観察者と、また子どもや子育てをしている親たちと一緒にこの蝶のドラマチックな行く末を観察し続けたいと思う。

知多半島を中心とするナガサキアゲハの記録

2002年6月9日(日)

期間	採取・確認地	頭数/雌雄	標本	報告者
1998年5月 8日	南知多町大字豊浜字廻間	1♀採取	1♀	井上
1999年5月~6月	南知多町内海高校前・内福寺	数頭目撃		井上
8月22日	武豊町中山	1♀目撃		相地
9月18日	武豊町大字富貴字権兵新田	1♂1♀採取	1♂1♀	井上
9月18日	南知多町内海(内海高校前)	数頭目撃		井上
9月19日	武豊町権兵新田	数頭目撃		井上
9月19日	南知多町内海高校前	数頭目撃		井上
2000年4月29日	常滑市大谷	1♀目撃(伝聞)		相地
5月10日	南知多町内海高校前	1♂採取	1♂	井上
5月14日	南知多町内海高峰	3♂目撃		水野
5月18日	南知多町内海高校前	1♂1♀採取	1♂1♀	井上
5月22日	南知多町内海高峰	7♂3♀採取	7♂3♀	水野
5月23日	常滑市苅谷	1♂目撃		水野
6月 日	知多市新舞子東町	多數目撃		井上
7月 日	知多市新舞子東町	多數目撃		井上
7月20日	南知多町内海矢倉ヶ根	1♀採取	1♀	相地
8月30日	南知多町内海高峰	2♂1♀採取	2♂1♀	水野
2001年5月 3日	南知多町内海いりが奥	1♂1♀採取	1♂1♀	相地
5月 6日	武豊町嶋田	1♂採取	1♂	井上
5月 6日	南知多町内福寺	2♀採取	2♀	井上
5月 6日	南知多町内海高校前	2♂採取	2♂	井上
5月 9日	半田市任坊山	1♀目撃		相地
5月 9日	武豊町権兵新田	2♂採取	2♂	井上
5月 9日	南知多町内福寺	6♂採取	6♂	井上
5月13日	南知多町内海高校前	4♂採取	4♂	井上
5月13日	南知多町内海高峰	数頭目撃		水野
5月20日	常滑市桧原公園	数頭目撃		水野
6月 6日	武豊町権兵新田	2♂採取	2♂	井上
7月10日	常滑市樽水字山形	1♂採取	1♂	井上
8月15日	南知多町内海大名切	1♂2♀目撃		相地
8月17日	南知多町山海山いちご	1♀目撃		相地
8月17日	南知多町山海久	1♀目撃		相地
8月18日	南知多町内海矢倉ヶ根	数頭目撃		相地
8月20日	南知多町大井・豊丘方面	数頭目撃		相地
9月27日	静岡県田方郡伊豆長岡町	1♀目撃		井上
9月28日	同上	1♂目撃		井上
2002年4月29日	武豊町権兵新田			井上
4月29日	南知多町内海高校前・内福寺	7♂採取	7♂	井上
5月 1日	南知多町内福寺	1♂採取	1♂	井上
5月 2日	同上	2♂1♀採取	2♂1♀	井上

このリストは、現在、作成中のものです。井上・水野・相地



庄内緑地ネイチュア・フィーリングをスタートして

第一回開催 平成14年4月28日(日) 晴れ

参加人数 障害のある人15名 ない人17名 スタッフ8名 合計40名

障害のある人も、ない人も、誰でも参加できます。の言葉にうそがあつてはならない。これは、ネイチュア・フィーリングの大切な事柄でした。

目の不自由な人や車いすの人に、クスノキの葉にさわってもらい、匂いをかいでもらいました。そのときに、参加者のひとりがスタッフを含めたみんなに教えてくれたことがあります。下に落ちている枯れ葉の方がよく匂うよ。と。

誰もが知っているマツの木の下のオオバコやタンボポの草原で小憩をとっているときのことです。スタッフのひとりが知的障害の青年に声をかけていました。するとその青年は笑いながら一旦はその場から離れて逃げていきましたが、すぐにそーっと戻ってきてそのスタッフにまたニッコリ。こんな光景が随所に見られました。青年にとってマツの木の雄花や雌花の話はどうでもよかったようですが、長く伸びた雌花に気がついてくれたでしょうか。

障害のある人を迎えるのに身構えてはいけないと思っていたが、身構える必要など少しもありませんでした。

ここは名古屋市内の都市公園ですので、休日はいつも賑やかです。この日も、車いすマラソン大会や他のグループの自然観察会が行われているなど、自然をじっと感じるには賑やか過ぎでした。静かな雰囲気とはちょっとかけはなれた条件でしたが、参加してくれた人は人おざわめきも含めて、春から初夏への一日を感じとてくれたように思います。

クスノキやマツという身近な自然を感じてもらい、雪のようなナンジャモンジャの珍しい光景と合わせて楽しんでもらえたかな、と思います。

期待を持って第一回の朝を迎えたのですが、穏やかな空を見て空気を感じて、その段階で成功を信じました。

実はもっと前に、3回にわたってスタッフで下見を続けるうちに、ネイチュア・フィーリングをはじめることが出来る、との胸のうちに言い聞かせることができるようにになっていました。それは、スタッフとして集まった10人のピカピカの自然観察指導員の、「自然をじっと感じよう」「誰でもがいっしょに楽しもう」の熱い思いを感じることができたからです。

どの局面でスタッフがどう対応するか、自然観察と障害のある人の基本的なことは、これからずーっと勉強を続けなければ、と思いつつ感想文とさせていただきます。

(岩沢 修)



行事予定・お知らせ

自然観察指導員研修会（主催：愛知県、（財）自然保護協会）

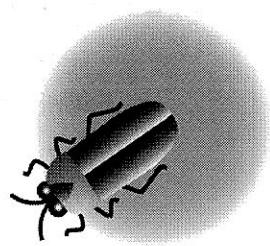
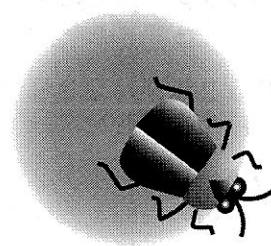
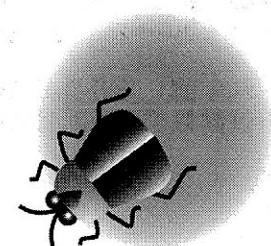
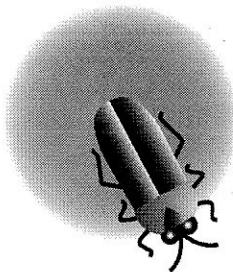
テーマ：ネイチュアフィーリング（車いすを使った自然観察指導）

日 時：平成14年11月16日（土）午後1時～17日（日）午後2時頃

場 所：愛知県刈谷勤労福祉会館（刈谷市井ヶ谷町松ヶ崎6-26）

募集人数：自然観察指導員50名（県内40名、圏外10名）

参加費用：12,000円程度の予定



うらばなし「ヒメボタルサミットin愛知」

それは一冊の本との出会いから始まった。「豊中ヒメボタルを守る会」(大阪府)の存在、同会の代表田中氏から関西圏ではヒメボタルサミットが数年前より開催されているという情報。サミットの資料を取り寄せてみると、参加団体の多さとネットワークができていることに驚く。昨年2001年、春のことだった。

やがてヒメボタルの初見日から毎夜、相生山緑地へと自転車を30分走らせた。ヒメボタルの星を散りばめたようなきらめきに心を奪われながら、他のグループはどんな活動をしているのだろうか、どんなメッセージを伝えたいと思っているのだろうかと、想いをめぐらせた。この時期「サミットをやろう」と決心する。

ヒメボタルにかかわる団体としては、すでに4団体ほど知己があった。協議会には各支部長・事務局を通してヒメボタルにかかわる会員を紹介してもらう。

本年2002年1月に準備会後に実行委員会の立ち上げる。開催趣旨の確認をし6月まで13回の打ち合わせを経てサミット開催にこぎつけた。委員会は毎回、会場設定、ちらし作成、講演会ゲスト、プログラム、資料作成など満載状態だった。

データとしては名古屋市科学館への事前申込み290名、当日直接参加者40名、スタッフメンバー30名である。

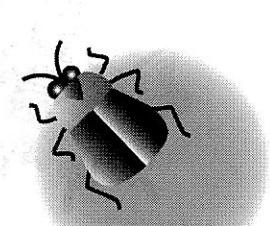
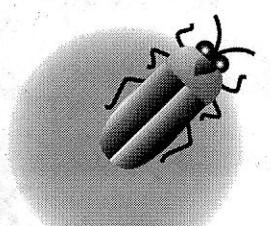
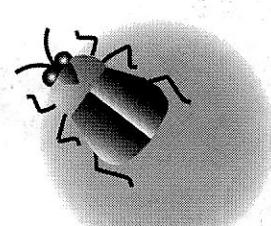
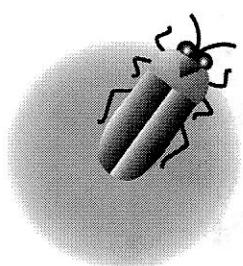
当日、プログラム進行中からすでに「大成功」と評価をいただく。委員会のメンバーのひとりも「200%300%の出来!」と自画自賛。

サミット成果として①陸生のヒメボタルの存在とその生息の場の大切さのアピール。②ヒメボタルにかかわる団体の情報交換とネットワーク化、がある。また名古屋市科学館との共催の実現をみたことも大きな成果である。

次年度のサミットは今回のゲストの大場氏に再度講演依頼し共にフィールドワークを行う予定をしている。

今回、私の情報収集力不足もあるがもっと多くのヒメボタルにかかわる団体、個人の方と会いに会いたかったと思う。是非、情報提供をお願いしたいし、委員会メンバーへ名乗りをあげていただきたい。

連絡先 「ヒメボタルサミットin愛知」実行委員会
代表 近藤記巳子 TEL・FAX (052) 822-7460



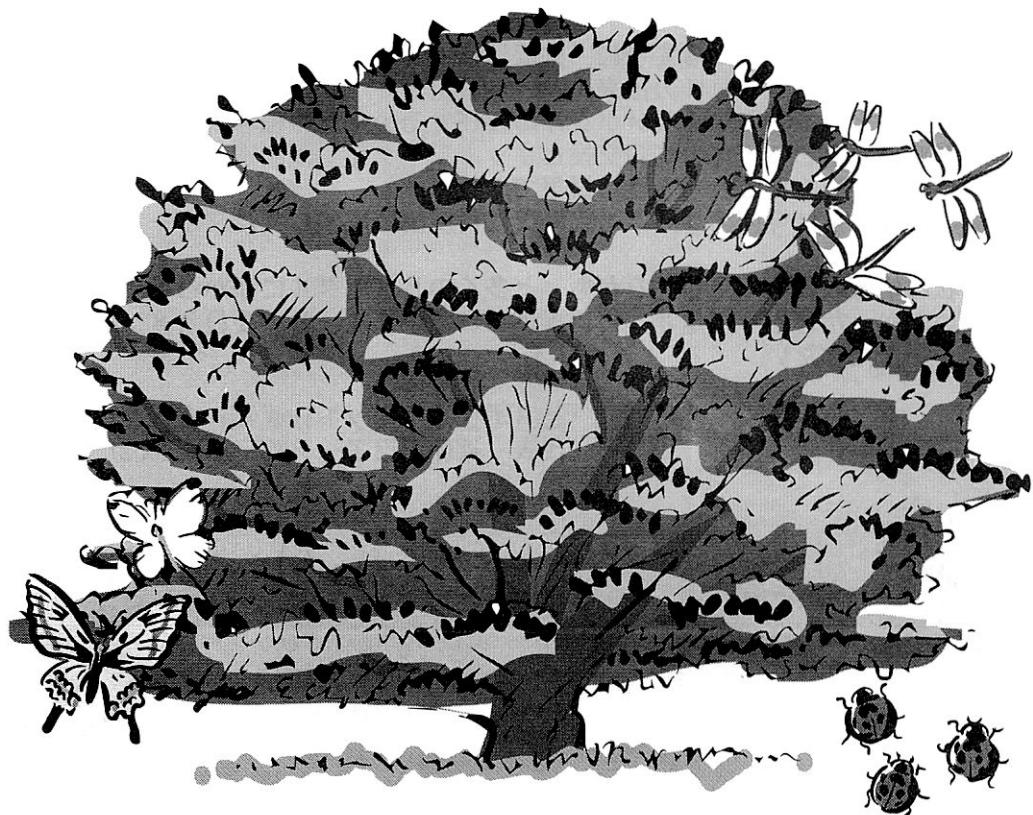
名古屋支部設立20周年記念大会

期日	2002年9月23日（祝）午前9時30分受付開始
場所	名古屋市農業センター（地下鉄鶴舞平針または赤池下車）
午前	周辺の観察会（周辺2コース）、クラフト教室、竹伐り
午後	名古屋市の自然と観察会の紹介
	講演 岩木呂卓巳（名古屋市在住映像作家）－虫々の詩－
終日	各観察会のパネル展示

これまで、各支部で20周年記念行事が行われてきましたが、当名古屋支部でも、上記の内容で執り行う事が決まりました。内容については、現在、実行委員を中心 にさらに細かく詰めている段階です。なお、参加申し込みについては特に期限をも うけず、一般市民も含めて、当日参加の形で行いたいと考えております。「白い街」 と形容された名古屋の街に残された自然に取り組む私たちの姿を見、自然と人間の あり方について考えるきっかけになる事ができれば、と考え、これから支部の総力 を挙げて取り組んで行く予定です。県内各地からの参加をお待ちしております。

また名古屋支部所属の指導員の方、何かとお手伝いをお願いする事があるかと思 います。できる範囲で結構ですので、なにとぞ、快くお手伝いをお願いいたします。

連絡先 支部長 山田千宏 Tel & Fax 0562-97-6857
 実行委員会事務局 滝田久憲 Tel 052-782-2663





なごやメダカを知っていますか?

日時 2002年7月20日 13:00~15:00
 場所 東山動物園 メダカ館 研修室



イベント内容

- ・世界初3Dハイビジョンによるメダカの誕生上映
- ・吉田徳巨講師による”なごやメダカを知っていますか?”
- ・メダカトラスト副会長の話（前東山動物園園長 鹿島氏）
- ・メダカ館見学
- ・バックヤード内部公開見学
- ・ビオトープ見学

講師プロフィール

吉田徳巨（よしだのりひろ）

学校法人NCA非常勤講師、水棲生物研究室、
 水草研究会、天白川楽しみ隊スタッフ

※ご注意

入園料として500円が必要となります。

当日入場も可ですが申込が必要となります。

お問い合わせ先

場所について・・東山動物園 TEL (052) 782-2111

イベントについて・運営委員（石井）TEL (052) 771-8004

会員リレー(石井幸子・近藤記巳子・石田晴子)



【石井幸子】 (いしいこうこ・尾張)

石井でーす。クモ女といわれて早?年。クモ女=石井という事が定着してしまい、うれしいことです。

8月は「日本蜘蛛学会」が鹿児島の加治木町であります。クモ合戦で有名?また報告します。

★バトンを渡す人

奥三河の小山舜二さん、お元気ですか?

棚田は今早苗で美しいでしょうね。



【近藤記巳子】 (こんどうきみこ・名古屋)

かつて、春夏秋冬、日本のあちらこちらを長期休暇を取って旅していた時期があった。

1989年、相生山縁地と出会ったこと、1991年に相生山縁地自然観察会を立ち上げたことによって身近な自然に目が届き、その大切さも認識するようになる。遠くの大自然は一生のうちで何度も訪れることができるだろう。たとえば今年7月に北海道へ行くが、あこがれを抱く土地でさえ通算4回めにすぎない。身近な自然であれば、徒歩あるいは自転車で気軽にいくことが可能だ。

これからますます自分の住む地域の自然を丹念に見続けていく必要を感じる。

この1年の私のトピックス・ベスト3

1. 「ヒメボタルサミットin愛知」開催
2. 食の創作コンテスト入賞 (野草をアイテムにしたレシピ)
3. 野鳥観察開眼

★バトンを渡す人

三河支部鈴木友之さんにお願いします。お元気ですか。近況報告を楽しみにしています。



【石田晴子】 (いしだはるこ・名古屋)

こんにちわ!名古屋支部の石田晴子と申します。指導員には平成9年に登録しました。

といっても、私は平成9年4月から「愛知県環境部自然環境課」に勤務しております県職員であり、自然観察指導員講習会を開催することも職務の1つなのです。

平成9年、10年当時は県主催の自然観察会を年6回開催しており、自然観察会の経験も実はそのことが最後となっている、大変不出来な指導員です。

このような私が事務局グループ(主に会計を担当します。)に名を連ねることになってしまった理由は、私の現勤務先が自然観察指導員講習会の開催など自然観察指導員協議会の協力を得た事業を行っていることと、現在の協議会費等の預金口座が県庁出張所であるため、その出し入れに一番便利という2点によるものです。

ただ、仕事を離れても自然の大切さとその保護の重要さは十分に感じとっているとの自負もありますので、日頃観察会で活躍されている皆様の事務的なお手伝いが少しできれば幸いと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。

★バトンを渡す人

尾張支部「福田智」さんにお願いします。

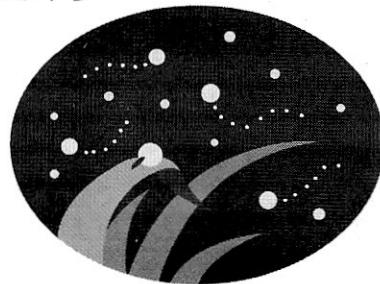
観察会だより(東三河支部)

東三河支部 寺本 和子

東三河支部では、今年度10回の定例観察会と3回の自然観察会を企画しました。定例観察会は豊川支川朝倉川の水源の森を含め、上流から下流まで毎月あちらこちらからを観察します。朝倉川は長さ8.6kmの豊橋の町の中を流れる小河川で、上流は自然の沢、中、下流は護岸の整備された人工的な川です。川を愛する人たちの願いは自然な川の再生です。川辺の植物、水生生物などを観察しながら、川の環境を考えます。

4月には、第一回の観察会「桜の園と里山の自然を訪ねる」が開催され、新城市宇利地区の美しい里山の風景と自然を観察しました。ここには蛇紋岩の山があり、特異な景観も見ることができます。近くの小学校の子供たちが大勢参加してくれて、にぎやかで楽しい観察会になりました。この里山で、有志の人たちが枯れた松の変わりに各種の桜を植えており、自然と桜との関係についても考えさせられました。

6月には昨年に引き続きよるの観察会「朝倉川でナイトウォッチング」を企画しています。夜の動物や植物のどんな姿がみられるのやら・・・



名古屋の自然観察ラリーについて

名古屋支部設立20周年行事事務局 滝田久憲

名古屋支部は昨年、設立20周年を迎えました。そこで、来る9月23日に設立20周年記念行事を行う予定になっています。ところで、支部では現在市内の10数カ所で定例の観察会を行っています。「身近な自然を見つづける。」というNACS-Jの考え方すれば、良い方向に進んでいるといえます。しかし、問題がないわけではありません。定例の観察会の多くが名古屋市東部に偏っていることや、そのフィールドの多くが公園緑地であることです。従って、今後は開催場所を市内各所に広げたり、観察する内容を多様化することなどが課題となります。そこで、今回、支部では設立20周年行事の一環として、名古屋の自然観察ラリーを企画しました。これは、定例の観察地以外の市内6カ所でプレ自然観察会を開催し、3カ所以上の参加者には記念品を進呈するものです。観察地には神社、仏閣、ため池、川などの多様な自然が選ばれました。参加者には、観察会終了時に名古屋の自然の今後などについて、アンケートで答えていただきます。また、このプレ観察会には多くの新しい指導員にも参加してもらい、経験を積んで頂きたいと思っています。ところで、市内にはプレ観察会で選んだ場所以外でもすばらしい自然環境の観察地がいくつもあります。このような場所についても、今回のラリーのように年間スケジュールを組んで観察会で訪れるこども支部の今後の大切な事業になります。



協議会ニュース部会報告

昨年、佐藤国彦事務局長から「14年度を引き継ぎ期間として、事務局長を退きたい」との申し出がありました。

たまたま尾張支部の「石井幸子さん」と名古屋支部の「近藤記巳子さん」から、2人でなら事務局長の仕事を受けてもよいとの申し出があったことから、当時から「会計」を仰せつかっておりました私（石田）の3人で、とにかく自分のできる範囲で協力して事務局の仕事をやっていく仲間をつくろうと事務局グループを発足することとなりました。

その様な訳で、昨年末に会員の方々にお願いしたアンケート調査結果を基に、お手伝いいただけそうな会員の皆様に協力を呼びかけたところ、とりあえず12名の賛同者が集まり、当面の事務局グループ結成の運びとなりました。

5月14日に開催した第1回目の事務局グループ打合会で、佐藤さんにアドバイスを受けつつ、「引継期間は1年間あるものの、とりあえずスグにしなければならないこと」として、「隔月の機関誌発行」と「指導員の研修計画」に取り組むこととしました。

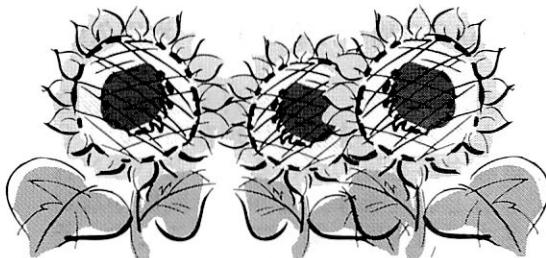
当初は、機関誌部会と研修部会に2分する予定でしたが、「何はともあれ、まず機関誌発行を」と事務局グループ総出で、何とか今回の発行にこぎつけました。

今後は隔月の確実な発行を最大の目標としてがんばりますので、会員の皆様の一層のご協力を心からお願いいたします。（ご意見、投稿など大歓迎です。）

また、事務局グループ員大募集中ですので、「こんなことならできるよ！」という方、お待ちしています。

最後になりましたが、今まで協議会の全ての事務をお一人でやってこられた佐藤さん、本当に大変なことだったと思います。今年1年間どうかご指導の程、よろしくお願ひいたします。

事務局グループ 会計担当 石田晴子（名古屋支部）



編集後記

今号よりニュースの編集に参加しています。本当に指導員としてもひよっ子で、編集は卵の状態ですが、どんどん勉強して「にわとり」か「白鳥」になりたいと思っています。（東三河・符川）

このたび「協議会ニュース」の編集を担当することになりました。

ほとんど経験がないことばかりなので右往左往するばかりですが、序々に慣れていきたいと思います。（尾張・吉田）

編集スタッフ（順不同）

近藤 記巳子	石井 幸子	吉田 裕孝
中西 夫	横田 法子	降旗 光宏
横井 邦子	相地 満	国安 俊夫
符川 真弓	鬼頭 弘	石田 晴子

顧問：佐藤 国彦



愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒470-0114 日進市南ヶ丘2-18-11 佐藤 国彦